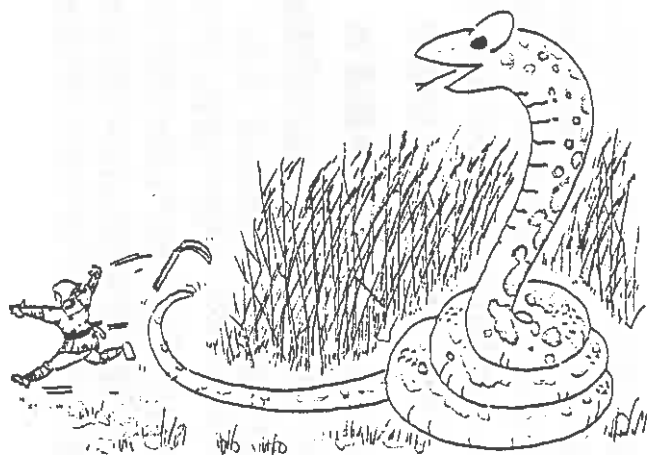


# 大淵 大峯山の蛇塚

昭和六十四年一月一日号



ことは巳年。つまり蛇年です。昔、大淵の丸火自然公園東側付近に大峯山の蛇塚と呼ばれる塚がありました。今回は、その塚に伝わっていたお話です。

## カヤ刈りに行った農民

丸火自然公園の東側に、昭和の初めごろに「心教本部不二大和同園」という宗教団体がありません。その境内には大峯山の蛇塚と呼ばれた塚があつたといわれています。

昔、大淵の丸火自然公園のあたりは、遠く人里離れた山奥でした。

ある日、上和田の農民が一人でこの付近へ

草刈りに行きました。大峯山のふもととはカヤがいつばい茂っていたので、「これはよい場所だ」と思つて刈り始めました。

## 丸太のような大蛇

農民がふと足元を見ると、大きな丸太がありました。足でそれを取りのけようとすると、なんと丸太は動き出すではありませんか。

「はての？」と思つてよく見ると、それは大蛇でした。しかも、かま首をもたげ、舌を出して、今にも飛びかかつてきそうでした。

びつくりした農民は、気を失いそうになりましたが、一目散に家まで逃げ帰りました。農民は、家まで着いたものの顔がまっ青で、震えがとまらず、寝込んでしまいました。そして、とうとう朝になつて死んでしまいました。

た。

近所の人たちは「大蛇が吐き出した火をかぶつたからだ」と言いました。そして、「再びこんなことがあつては」と心配して、大峯山に蛇塚をつくりました。

## 大蛇が出そうだったよ

後藤広瀬さん(大淵三丁目)

現在、大峯山を管理している大淵三丁目の後藤広瀬さんは「大蛇の話は子供のころ年寄りから聞いたことがあるよ。大峯山のあたりは今でこそヒノキ林だけど、昔は一面力や畑だったね。本当に大蛇が出そうなところもあつたよ」と語ってくれました。